

前回のエコタウン事業推進部会における 委員の主な意見

令和 5 年 11 月 30 日

大阪府環境農林水産部 循環型社会推進室 資源循環課

1 委員の主な意見について

【成果指標について】

- 分母のマクロの活動（府内）と、分子の限られたエリア（エコタウン）の活動を比較して評価するのは限界がある。
- 比率で評価すると非常に小さくなってしまうので、総量で評価するというのも一案。
- 例えば品目ごとにおける再生利用量の経年変化や府内全体の再生利用量との割合など、事業を特徴づける指標の観点が必要では。
- 成果指標は、マスタープランとの整合性は必要だが、貢献を適切に評価する指標を検討すべき。
- 土砂と服では比重が全く異なり、貢献度の指標が重量ベースでいいのか疑問。
- カーボンニュートラル・CO2削減のための新しい取組の評価も必要。



・プラン目標は定性的なものとし、達成状況を評価するための成果指標は設定しない。
・事業者が自ら設定する自主管理目標の達成状況を管理し、事業の継続・発展を図る。
・事業者に管理指標（再生量や売上等）の報告を求め、エコタウンとしての特徴を把握する。

【名称変更について】

- 「サステナブル」は範囲が広い。候補の中では「サーキュラー」が「リサイクル」がよい。
- 目的に応じて名称も決まる。候補の中では「サーキュラー」がよいが、中間拠点の位置づけも盛り込む場合、それがマッチするのだろうか。
- 「大阪」のイメージを盛り込むのか、もしくは先進的・野心的な言葉をあえて狙うのか。



（案）サーキュラーフィールドOSAKA

【めざすべき姿等】

- 「リサイクルに係る新技術等の研究開発・実証のための施設」は、サーキュラーエコノミーの実現に向けて、製品やプロセスの設計、関連するR&D施設まで広げてはどうか。制約条件がある中で、原料調達の協力体制など、活動に対してのソフトな支援が可能な仕組みづくりがあってもよいのでは。
- 使用済みの蓄電池も対象に追加してはどうか。EVから出る蓄電池のリサイクルや希少金属の抽出は、世界的に技術開発競争が起こっており、当該施設が立地してくれると、注目度が上がるのでは。

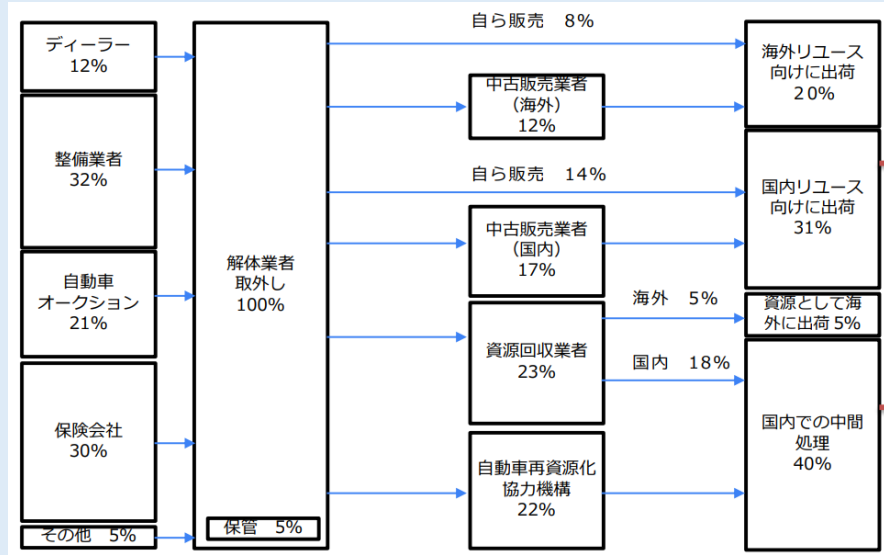


意見を反映

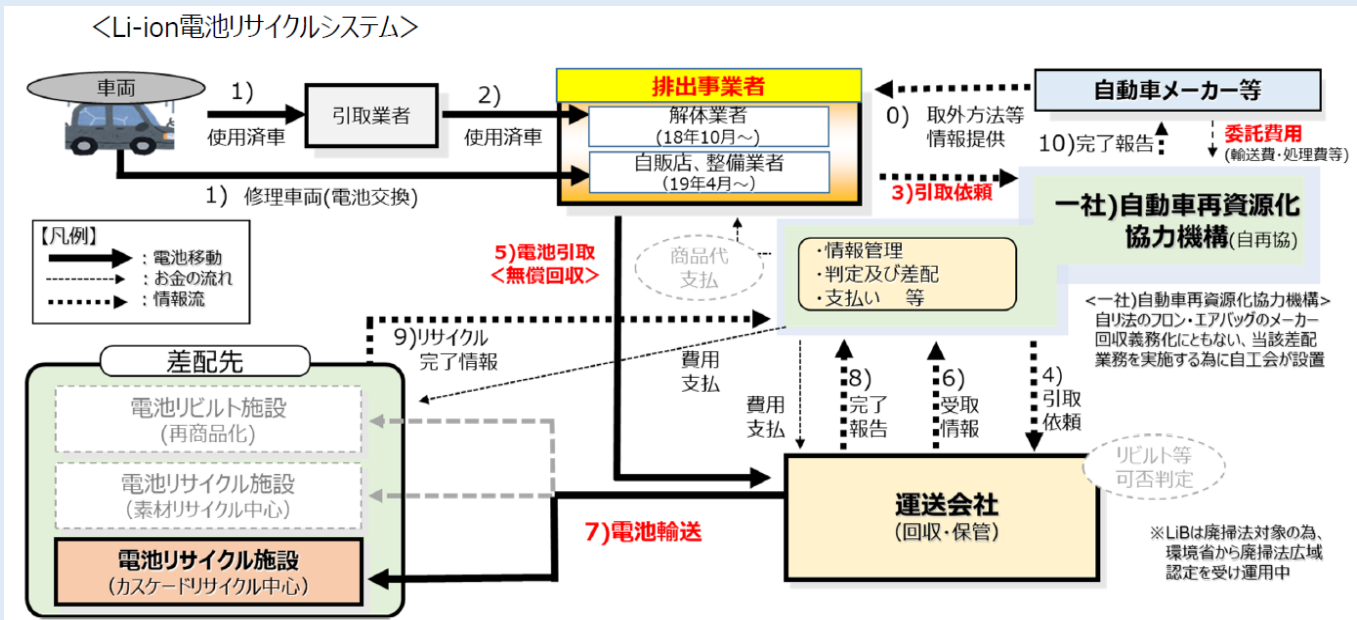
2-(1) 委員意見（使用済み蓄電池）に対する説明資料

① 使用済み蓄電池（EV（電気自動車）バッテリー）

- **第四次循環型社会形成推進基本計画**（5.国の取組み 5.3.5.温暖化対策等により新たに普及した製品や素材）
 - ・急速に普及が進むリチウムイオン電池等の新製品・新素材について、3Rに関する技術開発・設備導入を支援するとともに、適正なリユース・リサイクル・処分のためのシステム構築を推進する。
- **蓄電池産業戦略**（サステナビリティ確保にむけた取組）
 - ・リサイクル・リユース：2030年までの国内のリサイクルシステム確立をめざし、解体後バッテリーの流通実態の更なる把握を行いつつ、使用済み電池の回収力強化、リユース電池市場の活性化、リサイクル基盤の構築に向けて必要な取組を検討
- **車載用バッテリーのリサイクルの現状**
 - ・自動車メーカー等が「リチウムイオンバッテリー共同回収システム」（右下図）を構築・運用し、全国12か所の電池リサイクル施設を指定し、自動車解体業者等からバッテリーを回収して適切にリサイクル。



※ここでは、海外に輸出された新車・中古車を除いて国内で解体されるものを100%とする。



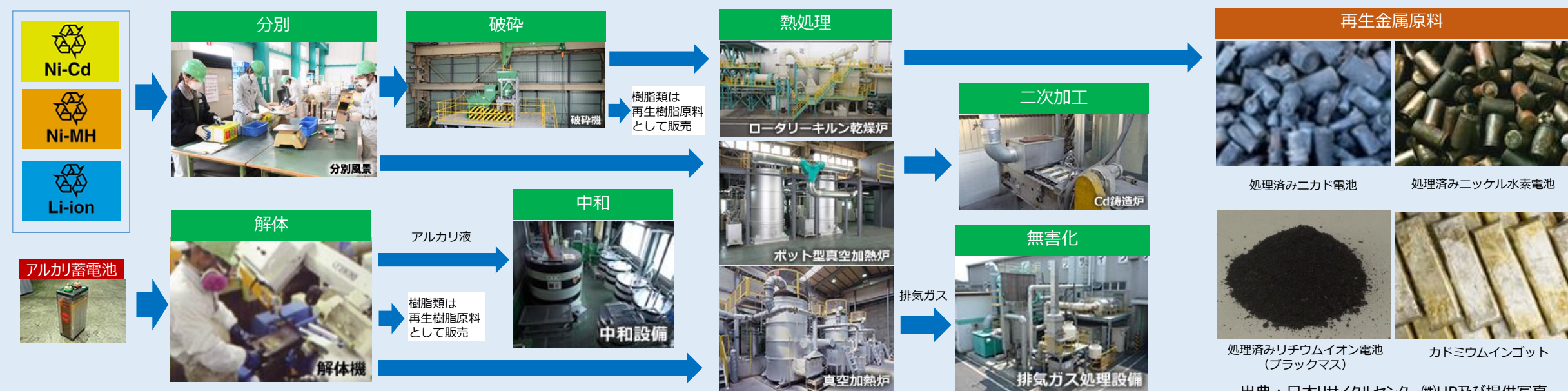
※LiBは廃掃法対象の為、環境省から廃掃法広域認定を受け運用中

2-(2) 委員意見（使用済み蓄電池）に対する説明資料

○二次電池のリサイクル事例：日本リサイクルセンター（株）

【事業内容】

・使用済みとなったニカド電池、ニッケル水素電池、リチウムイオン電池（LiB）、産業用アルカリ蓄電池や、これらの製造工程スクラップを幅広く回収し、それらに多く含まれるニッケルをはじめとしたレアメタルのリサイクルを実施。



出典：日本リサイクルセンター(株)HP及び提供写真

【リサイクルに係る課題等（ヒアリング内容）】

- ・基本的に、EVのバッテリーはLiB、HVのバッテリーはニッケル水素電池。
- ・EVバッテリーは基本リサイクル。その理由は、EV用のLiBはまだ使用済み品の流通量が少なく、リユース品としての性能担保や実績がないため。HVバッテリーはリユースの割合が高い。
- ・CNに向け、EVを含む車載用バッテリーのリサイクル需要の増加は見込まれるため、施設用地の需要も一定あると思われる。
- ・LiBのリサイクルでは、LiBに含有するレアメタルを濃縮してブラックマス（黒い粉）の状態にまで加工するが、国内ではブラックマス再利用の商流がまだ未整備なことから、海外の業者に売却している。業界としても、国内の資源循環について検討を始めているところ。

<まとめ> 使用済み蓄電池のリサイクル事業拡大の余地あり。海外流出しているブラックマスからのレアメタル回収が期待される。